

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾	
			JMPR	食品安全委員会
	2世代 繁殖試験 ②	0、5、50、250 ppm ----- 雄：0、0.34、3.46、17.3 雌：0、0.40、4.04、19.6	親動物 雄：0.34 雌：0.40 児動物： 雄：3.46 雌：4.04 親動物 雄：肝細胞内SER増加 雌：肝細胞肥大 児動物 雌雄：同腹児数減少等	親動物 雄：0.34 雌：0.40 児動物： 雄：3.46 雌：4.04 親動物 雄：肝細胞内SER増加 雌：肝細胞肥大 児動物 雌雄：同腹児数減少等
	発生毒性 試験①	0、10、50、250	母動物：10 胎児：－ 母動物：体重増加抑制、摂 餌量減少及び肝比重量 増加 胎児：骨格の異常	母動物：10 胎児：－ 母動物：体重増加抑制及 び摂餌量減少 胎児：骨格変異
	発生毒性 試験②	0、0.4、2、10、50、250	母動物：10 胎児：2 母動物：体重増加抑制、摂 餌量減少及び肝比重量 増加 胎児：吸収胚数増加、矮小 胎児合計数増加等	母動物：10 胎児：2 母動物：体重増加抑制及 び摂餌量減少 胎児：吸収胚数増加、矮 小胎児合計数増加等
	発生毒性 試験③	0、50、100、300、900 ppm ----- 0、4.6、9.0、26.6、79.2	母動物：9.0 胎児：4.6 母動物：体重増加抑制及び 摂餌量減少 胎児：吸収胚数増加、同腹 児数減少等	母動物：9.0 胎児：4.6 母動物：体重増加抑制及 び摂餌量減少 胎児：吸収胚数増加、同 腹児数減少等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾	
			JMPR	食品安全委員会
	発生毒性試験④	0、0.2、0.4、2、10、100	母動物：10 胎児：2 母動物：死亡率増加、難産、 体重増加抑制、摂餌量減少等 胎児：腎盂、尿管拡張等	母動物：10 胎児：2 母動物：死亡率増加、難産、 体重増加抑制、摂餌量減少等 胎児：矮小胎児等
マウス	90日間 亜急性 毒性試験 ①	0、25、75、225、500、1,000 ppm	雌雄：4 雌雄：肝絶対及び比重量増 加、肝細胞空胞化等	雄：12 雌：5 雌雄：肝絶対及び比重量 増加、肝細胞細胞質空胞 化等
		雄：0、4、12、36、82、 164 雌：0、5、15、43、92、 222		
	90日間 亜急性 毒性試験 ②	0、1,000、2,500、5,000 ppm	雄：— 雌：— 雌雄：肝絶対及び比重量増 加等	雄：— 雌：— 雌雄：膀胱移行上皮過形 成等
		雄：0、161、436、1,004 雌：0、236、601、1,414		
18カ月間 発がん性 試験①	0、5、25、200 ppm	雄：3.4 雌：4.6 雌雄：肝細胞脂肪化等 (発がん性は認められな い)	雄：3.4 雌：4.6 雌雄：肝細胞脂肪化等 (発がん性は認められな い)	
	雄：0、0.66、3.4、27 雌：0、0.92、4.6、36			
18カ月間 発がん性 試験②	雄：0、100、500、1,000 ppm 雌：0、100、1,000、2,000 ppm	雄：— 雌：19.4 雌雄：膀胱移行上皮過形成 等 (雌雄で肝細胞腺腫・癌の 増加)	雄：— 雌：19.4 雌雄：膀胱移行上皮過形 成等 (雌雄で肝細胞腺腫・癌 の増加)	
	雄：0、14.3、73.1、144 雌：0、19.4、200、384			
ウサギ	発生毒性 試験①	0、2、5、12 (分析濃度：0、1.9、4.8、 10.1)	母動物：10.1 胎児：10.1 母動物：毒性所見なし 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められな い)	母動物：10.1 胎児：10.1 母動物：毒性所見なし 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められな い)

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾	
			JMPR	食品安全委員会
	発生毒性試験②	0、12、35 (分析濃度:0、11.2、31.5)	母動物:11.2 胎児:11.2 母動物:臆からの赤色分泌物、尾の汚れ及び食欲不振 胎児:毒性所見なし (催奇形性は認められない)	母動物:11.2 胎児:11.2 母動物:臆からの赤色分泌物、尾の汚れ及び食欲不振 胎児:毒性所見なし (催奇形性は認められない)
	発生毒性試験④	0、7、15、30	母動物:7 胎児:15 母動物:症状(赤色分泌物及び尾の黄褐色汚れ)、流産及び全胚吸収 胎児:毒性所見なし (催奇形性は認められない)	母動物:7 胎児:15 母動物:症状(赤色分泌物及び尾の黄褐色汚れ)、流産及び全胚吸収 胎児:毒性所見なし (催奇形性は認められない)
イヌ	90日間 亜急性 毒性試験	0、25、125、750/500 ppm ----- 雄:0、0.9、4.3、13.4 雌:0、0.9、4.3、14.2	雌雄:— 雄:胃幽門腺粘膜リンパろ胞過形成 雌:胃幽門腺粘膜過形成	雄:— 雌:0.9 雄:胃幽門腺粘膜リンパろ胞過形成 雌:胃幽門腺粘膜過形成
	1年間 慢性毒性 試験	0、5、20、75 ----- 雄:0、0.14、0.7、2.4 雌:0、0.14、0.7、2.6	雄:0.14 雌:0.14 雌雄:小葉中心性肝細胞肥大等	雄:0.14 雌:0.14 雌雄:小葉中心性肝細胞肥大等
ADI			NOAEL:0.14 SF:100 ADI:0.001	NOAEL:0.14 SF:100 ADI:0.0014
ADI 設定根拠資料			イヌ 1年間慢性毒性試験	イヌ 1年間慢性毒性試験

ADI:一日摂取許容量 SF:安全係数 NOAEL:無毒性量

1):最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

—:無毒性量は設定できなかった。

<別紙 1 : 代謝物/分解物略称>

記号	略称	化学名
B	IN-A7634	bis(4-fluorophenyl) (1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)silanol
C	IN-D8722	1 <i>H</i> -1,2,4-triazole-1-acetic acid
D	IN-F7321	[bis(4-fluorophenyl)methyl]silanol
E	IN-G7072	1,3-dimethyl-1,1,3,3-tetrakis(4-fluorophenyl)disiloxane
F	IN-H7169	[bis(4-fluorophenyl)methylsilyl]methanol
G	IN-H9933	1 <i>H</i> -1,2,4-triazole
H	IN-T7866	bis(4-fluorophenyl)silane diol
I	IN-V5771	[(4-fluorophenyl)methyl]silane diol
J	IN-V9462	3-(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-yl)alanine
K	IN-3733	[2-fluoro-5-[(4-fluorophenyl)(methyl)(1 <i>H</i> -1,2,4-triazole-1-ylmethyl) silyl]phenyl]-β-D-glucopyranoside
L	IN-37722	2-fluoro-5-[(4-fluorophenyl)(methyl)(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-ylmethyl)silyl]phenol
M	IN-37735	mono[6-deoxy-2- <i>O</i> [2-fluoro-5-[(4-fluorophenyl)(methyl)(1 <i>H</i> -1,2,4-triazol-1-ylmethyl)silyl]phenyl]-β-D-glucopyranos-6-yl] propanedioate
N	IN-37738	2-fluoro-5-[(4-fluorophenyl)(hydroxy)(methyl)silyl]phenol
O		5-methyl-2,4(1 <i>H</i> ,3 <i>H</i>)-pyrimidin
P		[bis(4-fluorophenyl)methylsilyl]methyl phosphate
Q		2-fluoro-5-[(4-fluorophenyl)(hydroxy)(methyl)silyl]phenylphosphate
R		[2-fluoro-5-[(4-fluorophenyl)(methyl)(1 <i>H</i> -1,2,4-triazole-1-ylmethyl)silyl]phenyl]-β-D-glucopyranoside 6-phosphate

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
ai	有効成分量
Alb	アルブミン
ALP	アルカリホスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ [=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT)]
FSH	卵胞刺激ホルモン
Hb	ヘモグロビン (血色素量)
hCG	ヒト絨毛性ゴナドトロピン
Ht	ヘマトクリット値
IC ₅₀	50%阻害濃度
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
LH	黄体形成ホルモン
MC	メチルセルロース
Mon	単球数
P450	チトクローム P450
PHI	最終使用から収穫までの日数
RBC	赤血球数
SER	滑面小胞体
T _{1/2}	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Chol	総コレステロール
TP	総蛋白質
TRR	総残留放射能
WBC	白血球数

<別紙3：作物残留試験成績>

作物名 (分析部位) 実施年	試験 圃場数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)	
					フルシラゾール	
					最高値	平均値
レモン (果実) 2002年	2 1	60	1 1	14 19		0.06-0.07
						0.07
レモン (果実) 2002年	1	3 g ai/100L	2	14		0.09
レモン (成熟果実)	1	75	1	7		0.08
				14		0.08
				28		0.06
レモン (未成熟果実)	1	75	1	56		0.04
				70		0.04
				136		<0.01
マンダリン	1	75	2	28		0.05-0.08
			3	172		<0.01
マンダリン	1	75	2	102		0.01
				132		<0.01
マンダリン	1	90	2	93		0.01
				120		<0.01
マンダリン (成熟果実)	1	90	2	6		0.06
				13		0.05
				27		0.04
マンダリン (未成熟果実)	1	90	2	54		<0.01
				216		<0.01
マンダリン	1	180	2	93		0.03
				120		0.02
オレンジ (果実)	1	36	2	188		0.01
とうがらし (果実) 2005年	1	36	3	1		0.23
				3		0.22
				5		0.12
				7		0.12
とうがらし (葉) 2005年	1	36	3	1		7.01
				3		6.85
				5		5.21
				7		4.92
						4.57

<参照>

- 1 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件
（平成 17 年 11 月 29 日付、厚生労働省告示第 499 号）
- 2 食品健康影響評価について
（URL : http://www.fsc.go.jp/hyouka/hy/hy-uke-flusilazole_190806.pdf）
- 3 JMPR : Flusilazole (Pesticide residues in food: 1995 evaluations Part II
Toxicological & Environmental), 1995.
- 4 JMPR : FLUSILAZOLE (165), 2005.
- 5 フルシラゾール 残留基準値設定資料、未公表
- 6 第 202 回食品安全委員会
（URL : <http://www.fsc.go.jp/iinkai/i-dai202/index.html>）
- 7 Fluquinconazole + Flusilazole 8.5%SC 中 Flusilazole の作物（唐辛子）残留試験、
2005 年、未公表
- 8 European Commission : Review report for the active substance flusilazole, 2007.
- 9 第 21 回食品安全委員会農薬専門調査会確認評価第一部会
（URL : http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kakunin1_dai21/index.html）
- 10 第 49 回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会
（URL : http://www.fsc.go.jp/senmon/nouyaku/kanjikai_dai49/index.html）

